

令和2年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	02	01	08	124330	国際都市推進事業費
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進
	施策	03	国際都市の推進		
目的	花巻市の国際都市化を推進する。				
対象	市民				
意図	市民の国際理解及び多文化共生に関する理解の促進により、花巻市の国際化推進に寄与する。				
事業概要	国際都市推進員の活用等 3,664千円 公益財団法人花巻国際交流協会補助 1,106千円 公益財団法人花巻国際交流協会が行う国際理解推進事業等への補助 ・国際理解推進事業（多文化サロン、市民語学講座） ・定住外国人支援事業（コミュニケーション支援、生活支援） ・国際交流情報提供事業、国際交流団体活動支援事業 ・国際フェアINはなまき等 国際交流センター運営業務委託 11,372千円 団体への負担金 90千円 ・岩手県日壇協会会費・JICAボランティアを支援するいわての会復興ありがとうホストタウン事業 1,028千円				
市民参加の有無					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会		事業協力・協定	後援・協賛
		補助・助成	委託		
活動指標		単位	区分	H31	R02
1	情報発信回数	回	計画	50.00	50.00
			実績	45.00	43.00
2	小・中学校等での会話指導	回	計画	10.00	10.00
			実績	14.00	1.00
3	公共施設等の多言語表示等	回	計画	5.00	5.00
			実績	2.00	6.00
成果指標		単位	区分	H31	R02
1	交流会・講座等参加者数	人	目標	1,400.00	1,400.00
			実績	2,196.00	1,430.00
2	訪日外国人観光客入込客数（暦年）	万人	目標	5.20	7.50
			実績	6.10	0.91
3			目標		
			実績		
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
新型コロナウイルスの影響により、国際フェア等の人が多く集まる事業が中止となったことから、交流会・講座等参加者数が目標値より低い結果となった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・国内外への情報発信や公益財団法人花巻国際交流協会が行う国際理解推進事業等への補助、国際交流団体への支援は、国際都市化を推進する上で妥当な事業である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	・情報発信や国際交流協会による各種講座等の実施により、市民の国際理解や多文化共生に関する理解の促進が期待できることから、成果の向上余地がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・国際都市推進員は、市の会計年度職員（パートタイム）であり削減の余地がない。又、国際交流センター運営業務委託の主な内容は人件費で、市の会計年度職員に合わせた金額となっており削減の余地がない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	・情報発信や各種講座等は市ホームページや広報紙で広く市民に周知しており、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 国際都市推進員を活用して海外姉妹都市に向けた英語による情報発信を行ったほか、中国語と韓国語でも情報発信した。また、国のホストタウン専用サイトや復興ありがとうホストタウン連絡協議会のインスタグラムでも国際都市推進員を活用して英語でも情報発信し、国内外に広く発信することができた。 新型コロナウイルスの影響により人が多く集まる事業は中止となったが、少人数で行う講座や国際姉妹都市等周年記念展示等の実施可能な事業を（公財）花巻国際交流協会と共催し、市民の国際理解推進に努めた。
	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き国際都市推進員を活用した情報発信等により国際都市化を推進する。 引き続き花巻国際交流センターの運営及び（公財）花巻国際交流協会への補助事業を実施し、市民の国際理解を推進する。

令和2年度

事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	02	01	08	124340	国際姉妹都市等交流推進事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進	
	施策	03	国際都市の推進			
目的	国際交流人口の拡大					
対象	花巻市民（中学2年生）、国際姉妹都市等の中高生・市民・教員					
意図	国際姉妹都市等との派遣及び受入事業の実施により、姉妹都市等との交流を推進し、市民の異文化理解を深め国際感覚を醸成する。					
事業概要	公益財団法人花巻国際交流協会補助 0千円 公益財団法人花巻国際交流協会が行う交流研修事業への補助 ・青少年海外派遣研修事業（市内中学2年生を、ホットスプリングス市、ベルンドルフ市、ラットランド市、クリントン村へ6名ずつ派遣。） ・海外青少年受入交流事業（ホットスプリングス市、ベルンドルフ市、ラットランド市、クリントン村からの青少年をホームステイで受け入れ。） ・市民等交流事業（国際姉妹友好都市からの市民等を受け入れ。） ・海外来訪者受入事業（国際姉妹友好都市以外からの来訪者を受け入れ。） 姉妹都市等交流受入のバス借上料 0円 大迫高校生ベルンドルフ市派遣 0千円 ベルンドルフ市55周年周年事業 164千円					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	交流都市	箇所	計画	6.00	6.00	
			実績	6.00	4.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	派遣人員	人	目標	50.00	50.00	
			実績	31.00		
2	受入人数	人	目標	50.00	50.00	
			実績	52.00		
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
新型コロナウイルスの影響により、海外姉妹都市等派遣及び受入事業が中止となったことから、派遣人員及び受入人数が実績値なしとなった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・市が共催して公益財団法人花巻国際交流協会が行う姉妹都市等との交流事業を実施することにより、姉妹都市等との安定した友好関係を維持することができるため妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	・姉妹都市等との派遣及び受入れ事業を継続的に実施することにより国際交流人口の拡大が期待できるため、成果の向上余地がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・派遣事業における渡航経費及び人件費（添乗員経費）は実績のある複数業者からの見積り合わせによりコスト削減を図っており、安全な派遣事業実施のためにこれ以上の削減余地がない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	・派遣生徒は市内中学2年生を対象に公募し、選考委員会により公正に派遣生徒を選考しており、受益機会は適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	・新型コロナウイルスの影響により姉妹都市等との交流事業を実施できなかったが、オンライン等での間接的な交流事業を実施することができた。
	次年度に向けて	・海外からの受入・派遣は中止となる見込みのため、オンライン交流等の間接的な交流により姉妹都市交流を促進する。 ・ラットランド35周年の市民訪問団受入はR4年度に延期となるため、関係者と相談しながら準備を進める。

令和2年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名			
01	02	01	17	124650	国内友好都市交流推進事業費			
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進			
	施策	03	国際都市の推進					
目的	友好都市（神奈川県平塚市・青森県十和田市）との都市交流を推進する。							
対象	花巻市民・友好都市市民							
意図	友好都市間の交流を促進する。							
事業概要	友好都市との交流 ・友好都市からの来客への報償費 20千円 ・花巻市友好都市交流委員会補助 0千円 R2年度はコロナの影響で補助事業の実施なし 花巻市友好都市交流委員会が実施する事業に対し補助金を交付する。 少年少女交流キャンプ、市民ツアー、友好都市との交流に係る団体への助成など							
市民参画の有無								
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標			単位	区分	H31	R02	R03	
1	友好都市交流事業実施回数			回	計画	20.00	20.00	
					実績	29.00	12.00	
2					計画			
					実績			
3					計画			
					実績			
成果指標			単位	区分	H31	R02	R03	
1	友好都市交流事業参加数			人	目標	450.00	450.00	
					実績	406.00	59.00	
2					目標			
					実績			
3					目標			
					実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
新型コロナウイルスの影響により、交流キャンプ等の人が多く集まる事業が中止となったことから、交流事業参加者数は目標値より低い結果となった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・市が取り交わした友好都市提携盟約書に基づいて進めている事業であり、公共関与は妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	・本事業の実施により、市民の友好都市への関心を高め、交流促進が期待できることから、成果の向上余地がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・友好都市との交流を広げるための事業費として、これ以上の削減は事業の縮小につながるため削減の余地はない。 ・職員が企画と実施を行っており削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	・交流事業の参加者は、小学生・市民とも市内全域から募集をしており、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	・新型コロナウイルスの影響により交流キャンプ等の事業は実施できなかったが、それぞれの給食メニューに友好都市のメニューを取り入れる給食交流を行い、間接的な交流を行うことができた。 ・修学旅行で来花した十和田市立第一中学校の生徒による十和田市PR発表会を花巻新渡戸記念館で行い、関係者との交流の場を設けた。
	次年度に向けて	・新型コロナウイルスの感染状況をみながら、情報発信や友好都市との交流に係る団体への助成等、実施可能な事業を行い、友好都市との交流を推進する。